



あ・うん珠取り夫婦龍 (平成元年新調 飾り幕)

刺繍：日本刺繍工業株式会社



あ・うん珠取り夫婦龍 (平成12年新調 飾り幕)

刺繍：梶内だんじり株式会社

雲海を突いて疾風の如く下界に舞い降りる龍神。龍は神仏の使いとされ、偉大な神通力を持っている。中国では、龍は麒麟・鳳凰・亀とともに四霊とよばれ、神秘的な動物として伝えられている。また皇帝の象徴でもあり、皇帝以外の使用は禁じられていた。日本の神話でも龍は水神、海神として崇められ、農作物の収穫と関係の深い農村では作物に雨をもたらす龍神として、古来より特別の信仰に近いものがあつた。だんじり飾幕の、あ・うんの珠取り夫婦龍は農村では水神としての意味合いが強く、祭りにおける五穀豊穰を祈念し、あるいは感謝し、※あ・うんの呼吸で2匹の夫婦龍が※如意宝珠を守っている姿であり、つまりは平和と繁栄

の象徴と見ることができる。

見方を変えて、ここ越木岩地区に当てはめれば、一方の龍は地域の住民を表し、他方の龍が地域の若者を代表するだんじりの引き手であり、新調だんじりを地域の宝物として如意宝珠に置き換えることによって、住民とだんじりの引き手が一体となって祭りを盛り上げることができれば最高の喜びではないでしょうか。

※あ・うんの呼吸；人と人が共に一つの事をする時などの相互の微妙な調子や気持ちを一致させたときの気合いをいう。密教では「阿」を万物の根源、「吽」を一切が帰着する智徳とする。

※如意宝珠；仏教でいう、意のままに願いをかなえるという霊妙な珠のこと。